



金融資産3000万円

3～4割は積極的に投資したい

分散投資と長期運用の方法は

夫61歳、妻58歳。現金などの金融資産が3000万円あり、このうち3割はリスクをとった積極的な運用をしたいと考えています。

株などに投資すれば損をすることがあるのは分かっていますが、今後大きな出費の手定めはないので、投資で一時的に損が出て耐えられると思っています。

資産運用は「分散投資」と「長期運用」がポイントだと聞きましたが、具体的にどうすれば良いのか分かりません。金融商品には株、債券、投資信託など数多くの種類があります。「分散投資」だから、なるべく多くの商品で運用した方がよいのでしょうか。

「補い合う」組み合わせを ■ 10年以上保有して調整も

金融商品には多くの種類があります。相談者のように1千万円前後の余裕資金を積極的に運用する場合も、一国内の株式市場が値上がりしただけで国内株の銘柄をいくつも買ってしまうと、外国債券は低迷しているのに、国内債券は上昇しているなど、多くの方法があります。実際、そのように運用している人もいます。ただ、未来を正確に予測するのは不可能なので、予測が外れれば資産を減らすこともあり得ます。選ぶのは自由だが、原則は自己責任、ということをお忘れください。

今回は、予測に頼らずに収益を安定化させるため、「補い合う関係」の商品を組み合わせる「ポートフォリオ運用」の一例を紹介いたします。分散投資の典型例です。

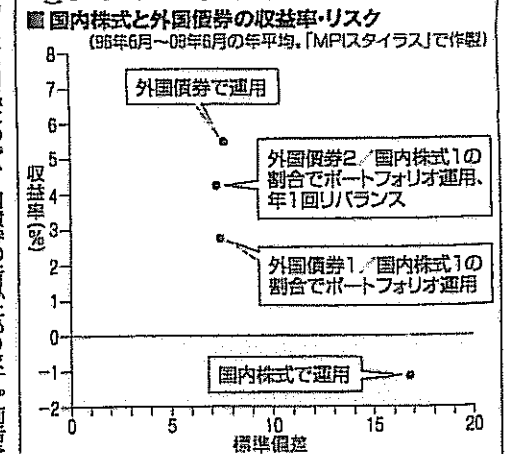
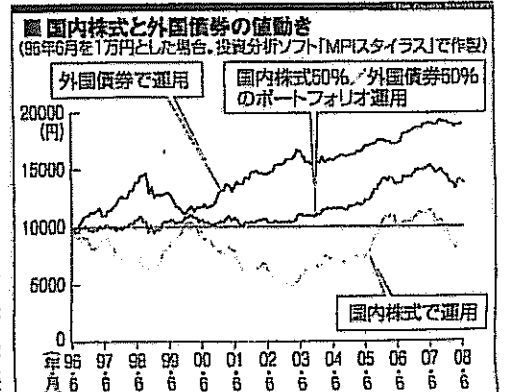
中心になるのは、債券と株式です。この二つは、一方が下落傾向のとき、もう一方が上昇傾向になりやすいのです。

たとえば、中長期的な株式市場の下落局面なら、不況が続いて企業業績は減収減益となっているでしょう。すると世間一般の金利は低下傾向になります。債券の利子は満期まで一定なので、債券の価格は増して価格が上昇します。このとき株式と債券と同時に投資し

ていけば、株価が下がっても債券の比較的高い利子で値上がり益が補ってくれるでしょう。

逆に、好況が続いて企業業績が増収増益となり、株式市場が中長期的に上昇傾向にあるときは、金利も上がりがちです。債券の利子は世間の金利に比べて見劣りするのて、値が下がるでしょう。つまり、株式投資の好成績時は債券投資は振るわないのです。

外国債券と国内株式の組み合わせなら、為替の要素が加わります。たとえば外国債券が米国内国債なら、債券はドル建て、株式は円建てです。米ドルと円は一方が安くな



れば他方が高くなる関係なので、中長期的には「補い合う」といえます。したがって相性の良い組み合わせとなり、値動きのブレを抑えられるのです(グラフ上参照)。

ポートフォリオ運用ではさらに長年に保有し、10年以上を待たずして、増収増益と保有するものではありません。増収増益と保有するものではありません。増収増益と保有するものではありません。

グラフ上では、外国債券と国内株式について、年間収益率(純利)と、リスクの大きさを表す標準偏差(横軸)をそれぞれ示しています。リスクとは「危険」や「元本割れの可能性」ではなく、

毎年の収益率の平均からのブレを指します。毎年、平均より下ブレして損失が出たり、逆に上ブレしてもうかつたりしています。

グラフは、見やすさも重視して08年秋のリーマン・ショック以降の市場全体の異常な急落は反映させていません。反映させると、収益率は株も債券も下がります。ただ、標準偏差の大きさはそれほど変わりません。国内株式のリスクは外

このほか、長期保有では「リバランス(再調整)」も必要です。外国債券2/国内株式1の割合で保有していても、それぞれの市場価格が変動し、割合も崩れてきます。これを年に1回(あるいは半々)として元に戻しましょう。比率の増えた方の一部を売り、比率の減った方を買い足すのです。

こうした運用の結果、リスクの高い国内株式を組み込んだ運用なのに、外国債券とほぼ変わらないリスクにとどめています。

ファイナンシャルプランナー 福田 肇太